

2月の行事と解説 余寒の候・晩冬のみぎり・余寒なお厳しいこの頃等

邪気を祓い厄を落とす 節分



もともと節分は、立春・立夏・立秋・立冬のそれぞれの前日をいい、年四回ありましたが、立春の前日だけを特にいうようになったのは、昔の暦で、年の変わり目の重要な日にあたっていたからです。

平安時代の儀式で、鬼に向かって、三石三斗のいり豆を投げつけて追い払ったことから、豆まきをする風習が生まれたといわれています。

年の数だけ豆を食べる

節分には、ひいらぎの枝にいわしの頭を刺したものを軒先にかけることもあります。一種の魔よけのしるしです。

そして一家の主人や子供が、外に向かって「鬼は外」、内に向かって「福は内」と大声で叫んで豆をまきます。まいたあと、鬼を締め出し、福が出て行かないよう戸を閉めます。

終わったらみんなでそれぞれの年の数だけ豆を食べ、一年の無病息災を祈ります。



稲荷神社に参拝する 初午

2月の最初の午の日を「初午」といい、この日には稲荷神社に参拝する風習があります。本来は豊作祈願が主でしたが、最近では開運・福德・商売繁盛をもたらす神として、広く人々にあがめられています。2019年(平成31年)の初午は？ ⇒2月2日(土曜日)です

裁縫の上達を祈願する 針供養

2月8日を裁縫の「事始め」、12月8日を「事納め」と呼び、この日に一年間使った針を、淡島神社に奉納する行事が針供養です。

折れたり痛んだりした針を豆腐やこんにやくに刺し、お供え物をして針に感謝し、裁縫の上達を祈願しました。



女性から男性に愛の告白 バレンタインデー

この日は、ローマ司教であり、のちに愛の守護神として敬愛された聖バレンタインが殉教した日で、また、春に先駆け、小鳥が愛の歌を歌い始める日とされていたことと結びついて、「愛の日」といわれるようになりました。

この日は、女性から男性に愛を告白する、という意味ばかりでなく、愛情をあらわす日なので、恋人同士に限らず、友人や家族に感謝の心を示す日にしたいものです。



2月の花：水仙

